

各位

会社名 株式会社フェニックスバイオ
代表者名 代表取締役 藏本 健二
(コード番号: 6190 東証マザーズ)
問合せ先 専務取締役管理部長 田村 康弘
(TEL 082-431-0016)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、平成28年3月18日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当社の当期の業績予想は以下のとおりであり、また、最近の決算情報等につきまして別途のとおりであります。

【連結】

(単位: 百万円、%)

	平成28年3月期 (予想)			平成28年3月期 第3四半期累計期間 (実績)		平成27年3月期 (実績)	
	対売上高比率	対前期増減率		対売上高比率		対上高比率	
売上高	1,184	100.0	34.4	799	100.0	881	100.0
営業利益	151	12.9	198.3	89	11.2	50	5.7
経常利益	160	13.5	155.5	84	10.6	62	7.1
親会社株主に帰属 する当期純利益	135	12.0	138.2	71	8.9	56	6.4
1株当たり 当期純利益	53.24円			28.17円		22.72円	
1株当たり 配当金	0.00円			—		0.00円	

- (注) 1. 平成28年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募予定株式数(300,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関連する第三者割当増資分(最大61,500株)は含まれておりません。
2. 当社は、平成27年8月1日付で10株につき1株の割合で株式併合を行っております。上記では平成27年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益並びに1株当たり配当金を算定しております。

ご注意: この文書は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書(並びに訂正事項分)」をご覧ください。また、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

【平成28年3月期連結業績予想の前提条件】

(1) 当社グループ全体の見通し

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策により企業収益や雇用環境は改善しており、国内景気は緩やかな回復基調が続いておりますが、中国をはじめとする新興国経済の減速懸念や原油安による景気の下振れリスクが依然として存在していることから、先行きは不透明な状況が続いております。

当社の顧客が属する医薬品業界では、後発品との競争激化、製品開発の停滞、保険料の財政圧迫に起因する価格値下げ圧力等により製薬企業の収益性は低下する一方、膨大な開発費負担が生じる新薬開発への投資効率を高める目的でM&Aによる業界再編が依然活発な状況にあります。このような状況を背景に、製薬企業では新薬開発を迅速かつ効率的に実施するために、臨床試験等の開発業務を外部のCRO（開発業務受託機関）へ委託するケースが増えており、当社がターゲットとしている前臨床試験におきましても製薬企業の外部委託は拡大傾向にあります。

このような状況の下、当社グループは、海外製薬企業を中心に抗B型肝炎薬の薬効評価試験の売上が伸長していることから、海外製薬企業への販路拡大のため、米国子会社であるPhoenixbio USA Corporationの営業部員の増員など販売体制の強化を進めてまいりました。この結果、当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高799百万円、営業利益89百万円、経常利益84百万円及び親会社株主に帰属する四半期純利益71百万円となりました。また、平成28年3月期につきましては、売上高1,184百万円、営業利益151百万円、経常利益160百万円、親会社株主に帰属する当期純利益135百万円となる見込みです。

(2) 個別の前提条件

① 売上高

当社グループの売上高は、主に製薬会社の医薬品開発における創薬工程のうち、主に前臨床過程においてPXBマウスを用いた受託試験サービスの提供によるものであります。これらの売上計画策定にあたっては、顧客である製薬企業の開発状況を調査した上で試験を行う時期を予測し、顧客ごとに案件を積み上げて策定しております。

当第3四半期連結累計期間につきましては、DMPK/Tox関連・その他売上は、国内市場においてジェネリック薬の安全性評価に関する大型案件が収束したため減少したものの、海外市場においては新鮮肝細胞（製品名：PXB-cells）の大型案件を受注し、これが寄与したため売上高233百万円（前年同期比25.3%増）となりました。また、肝炎関連売上は、海外製薬企業の抗B型肝炎薬受託試験の売上が伸長したため、売上高566百万円（前年同期比36.0%増）となりました。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は799百万円（前年同期比32.7%増）となりました。

平成28年3月期につきましては、肝炎関連売上は、第4四半期に予定している案件は全て受注済みであり、大半は2月までに売上となる予定であることから売上高864百万円（前期比41.7%増）を見込んでおります。また、DMPK/Tox関連・その他売上につきましても、海外市場においては、第4四半期中に見込んでいる約半分については既に受注済みであり、また、残り約半分については第3四半期中に売上計上された新鮮肝細胞（製品名：PXB-cells）の大型案件に関連する案件の売上を第4四半期中に見込んでおり、これらの売上寄与等により売上高320百万円（前期比17.6%増）を見込んでおります。この結果、平成28年3月期の売上高は1,184百万円（前期比34.4%増）を見込んでおります。

【連結】		平成28年3月期 (予想)		平成28年3月期 第3四半期累計期間 (実績)	
		売上高 (百万円)	対前期増減率 (%)	売上高 (百万円)	進捗率 (%)
肝炎関連売上	国内	235	10.8	139	59.1
	海外	629	58.2	426	67.7
DMPK/Tox関連 ・その他売上	国内	120	△38.8	100	83.3
	海外	200	161.8	133	66.5
総売上高		1,184	34.4	799	67.5

ご注意：この文書は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書（並びに訂正事項分）」をご覧いただいたうえで、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

② 売上原価

当社の売上原価は、PXBマウスの生産に係る費用とPXBマウスを用いた受託試験サービスに係る費用であります。PXBマウスの生産においては、社内でホスト動物等の繁殖を行っており原材料等の仕入れは僅少であり、売上原価の大半は人件費及び減価償却費等の固定費から構成されております。また、米国Charles River Laboratories社へPXBマウスの生産委託を当連結会計年度から本格化（前連結会計年度までは、米国Charles River Laboratories社での生産方法の具体化を目的としていたため研究開発費で30百万円計上）させたことにより、平成28年3月期は売上原価376百万円（前期比40.9%増）を見込んでおります。

③ 販売費及び一般管理費

当社の販売費及び一般管理費は、主に人件費、PXBマウス事業に係る研究開発費及び支払手数料で構成されております。平成28年3月期につきましては、海外製薬企業への販路拡大を目的としたPhoenixbio USA Corporationの営業部員の増員等による人件費237百万円（前期比20.0%増）、上場準備に係る手数料の増加等により支払手数料138百万円（前期比38.4%増）並びに米国において製薬企業と共同でPXBマウスの有用性検証のためのコンソーシアムの運営費用をマーケティング費として50百万円を見込んでおります。この結果、販売費及び一般管理費657百万円（前期比16.6%増）を見込んでおります。

④ 営業利益

以上の結果、平成28年3月期につきましては営業利益151百万円（前期比198.3%増）を見込んでおります。

⑤ 営業外損益

営業外収益につきましては、米国においてDMPK/Tox分野でのPXBマウスの有用性の検証のため、コンソーシアムを立上げ製薬企業と共同で研究開発を行っていく計画であり、参加製薬企業から当該コンソーシアムの参加費として14百万円を見込んでおります。また、営業費用につきましては、支払利息及び為替差損5百万円を見込んでおります。

⑥ 経常利益

以上の結果、平成28年3月期につきましては経常利益160百万円（前期比155.5%増）を見込んでおります。

⑦ 特別損益

特別損失として、労働争議に係る訴訟和解金2百万円を主に見込んでおります。

⑧ 親会社株主に帰属する当期純利益

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益135百万円（前期比138.2%増）を見込んでおります。

なお、海外製薬企業との取引については、米ドル建て取引を行っており、当社では、本資料を作成時の直近為替相場を鑑みて1ドル115円を前提に、当連結会計年度の業績予想を作成しておりますが、為替相場の急激な変動により、当社の業績に影響を与える可能性があります。

本資料に掲載されている当社の業績見通しは、本資料の作成時点において入手可能な情報による判断及び過程を前提としており、実際の業績は様々な要因により異なる場合があります。

以上

ご注意：この文書は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行う際は、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書（並びに訂正事項分）」をご覧いただいたうえで、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。

平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年3月18日

上場会社名 株式会社フェニックスバイオ 上場取引所 東
 コード番号 6190 URL http://phoenixbio.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 藏本 健二
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理部長 (氏名) 田村 康弘 TEL 082 (431) 0016
 四半期報告書提出予定日 — 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	799	—	89	—	84	—	71	—
27年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 71百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	28.17	—
27年3月期第3四半期	—	—

(注) 1. 平成28年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年3月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。
 2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。
 3. 当社は、平成27年8月1日付で10株につき1株の割合で株式併合を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	1,594	1,128	70.8
27年3月期	1,370	1,056	77.1

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 1,128百万円 27年3月期 1,056百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,184	34.4	151	198.3	160	155.5	135	138.2	53.24

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無
 2. 当社は、平成27年8月1日付で10株につき1株の割合で株式併合を行っております。当連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。
 3. 平成28年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募株式数(300,000株)を含めた期中平均株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関連する第三者割当増資分(最大61,500株)は含まれておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期3Q	2,526,800株	27年3月期	2,526,800株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	一株	27年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期3Q	2,526,800株	27年3月期3Q	一株

- (注) 1. 平成28年3月期第3四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年3月期第3四半期の期中平均株式数については記載しておりません。
2. 当社は、平成27年8月1日付で10株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	2
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	2
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	2
3. 四半期連結財務諸表	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策により企業収益や雇用環境は改善しており、国内景気は緩やかな回復基調が続いておりますが、中国をはじめとする新興国経済の減速懸念や原油安による景気の下振れリスクが依然として存在していることから、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの顧客が属する医薬品業界では、後発品との競争激化、製品開発の停滞、保険料の財政圧迫に起因する価格値下げ圧力等により製薬企業の収益性は低下する一方、膨大な開発費負担が生じる新薬開発への投資効率を高める目的でM&Aによる業界再編が依然活発な状況にあります。このような状況を背景に、製薬企業では新薬開発を迅速かつ効率的に実施するために、臨床試験等の開発業務を外部のCRO（開発業務受託機関）へ委託するケースが増えており、当社グループがターゲットとしている前臨床試験におきましても製薬企業の外部委託は拡大傾向にあります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高799,998千円、営業利益89,541千円、経常利益84,647千円、親会社に帰属する四半期純利益71,176千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は1,144,917千円となり、前連結会計年度末に比べ219,400千円増加いたしました。これは主に現金及び預金の増加によるものです。また固定資産は450,082千円となり、前連結会計年度末に比べ5,437千円増加いたしました。これは主に工具、器具及び備品、リース資産の購入によるものです。この結果、資産合計は1,594,999千円となり、前連結会計年度末に比べ224,838千円増加となりました。

(負債)

流動負債は312,377千円となり、前連結会計年度末に比べ177,818千円増加いたしました。これは主に前受金の増加によるものです。また固定負債は153,956千円となり、前連結会計年度末に比べ24,772千円減少いたしました。これは主に長期借入金の返済によるものです。この結果、負債合計は466,333千円となり、前連結会計年度末に比べ153,045千円増加となりました。

(純資産)

純資産合計は1,128,666千円となり、前連結会計年度末に比べ71,792千円増加いたしました。これは主に親会社に帰属する四半期純利益の計上によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、海外製薬企業のB型肝炎関連の拡大に加えて、DMPK/Tox分野への販路拡大を見込んでおり、売上高1,184,222千円（前年同期比34.4%増）、営業利益151,113千円（前年同期比198.3%増）、経常利益160,073千円（前年同期比155.5%増）、親会社に帰属する当期純利益135,177千円（前年同期比138.2%増）を見込んでおります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前連結会計年度については、連結財務諸表の組替えを行っております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	667,950	786,377
売掛金	55,108	93,880
製品	54,120	59,542
仕掛品	34,379	74,495
原材料及び貯蔵品	72,508	68,024
その他	41,449	62,596
流動資産合計	925,517	1,144,917
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	130,464	120,292
工具、器具及び備品(純額)	8,458	14,906
土地	296,000	296,000
リース資産(純額)	0	6,020
有形固定資産合計	434,922	437,218
無形固定資産	2,111	2,953
投資その他の資産	7,610	9,909
固定資産合計	444,644	450,082
資産合計	1,370,161	1,594,999
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,308	30,074
1年内返済予定の長期借入金	53,376	53,376
未払法人税等	5,218	16,455
その他	66,656	212,471
流動負債合計	134,558	312,377
固定負債		
長期借入金	136,783	100,085
退職給付に係る負債	39,069	46,100
資産除去債務	2,834	2,878
その他	41	4,892
固定負債合計	178,728	153,956
負債合計	313,287	466,333

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,830,090	1,830,090
資本剰余金	50,000	50,000
利益剰余金	△828,040	△756,864
株主資本合計	1,052,049	1,123,226
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	4,823	5,439
その他の包括利益累計額合計	4,823	5,439
純資産合計	1,056,873	1,128,666
負債純資産合計	1,370,161	1,594,999

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	799,998
売上原価	271,692
売上総利益	528,306
販売費及び一般管理費	438,764
営業利益	89,541
営業外収益	
受取利息	50
その他	44
営業外収益合計	94
営業外費用	
支払利息	2,086
為替差損	2,902
営業外費用合計	4,988
経常利益	84,647
特別損失	
固定資産除却損	71
訴訟和解金	2,000
特別損失合計	2,071
税金等調整前四半期純利益	82,576
法人税、住民税及び事業税	11,400
法人税等合計	11,400
四半期純利益	71,176
親会社株主に帰属する四半期純利益	71,176

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	71,176
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	616
その他の包括利益合計	616
四半期包括利益	71,792
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	71,792
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、「PXBマウス事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

平成28年1月15日開催の取締役会の決議に基づき、下記の子会社に当社が出資しました。

(1) 内容及び目的

当社は、海外の製薬企業に対してPXBマウスの受託試験サービスを提供しておりますが、プロモーション活動の一環として、製薬企業と共同でPXBマウスの有用性を研究することを目的としたコンソーシアムを米国デラウェア州に設立しました。

(2) 出資する会社の概要

名称：CMHL Consortium LLC

主な事業内容：PXBマウスの有用性の検証

出資日：平成28年1月21日

出資金額：30,152千円(250千米ドル)

出資比率：当社100%

決算期：3月